

安全上のご注意には、お使いになる方や他の方への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。以下の注意事項をよくお読みの上、正しくお使いください。

注意事項は危険や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った扱いをすると生じることが想定される内容を次の定義のように「警告」「注意」の二つに区分しています。

**⚠ 警告** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。

**⚠ 注意** この表示を無視して誤った取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される内容です。

**⚠ 警告**

- 必ず9V形乾電池を使用してください。異なる乾電池や電源で使用すると火災や感電の原因となります。
- 水に入れたり、濡らさないでください。また、水が入った容器や金属片などを、機器の上に置かないでください。火災や感電の原因となります。
- 煙が出る、異臭がする、水や異物が入った、破損した等の異常がある時は、乾電池を本体から取り外し、修理を依頼してください。異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。
- 分解や改造は行わないでください。お客様が保守できる部品は内部にはありません。分解や改造は保証期間内でも保証の対象外となるばかりでなく、火災や感電の原因となります。
- 複数のケーブルを同時に接続しないでください。ショートによる火災や感電の原因となります。

**⚠ 注意**

- 斜面や不安定な場所に設置しないでください。落下すると、けがや器物破損の原因となります。
- 以下のような場所に設置しないでください。火災や故障の原因となります。
  - 直射日光の当たる場所
  - 温度の特に高い場所、または低い場所
  - 湿気の多い場所
  - ほこりの多い場所
  - 振動の多い場所
  - 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 長時間使用しない時は、乾電池を本体から取り外してください。乾電池が消耗し、液漏れにより本体を損傷する恐れがあります。

### <ケーブルテスターの使用法>

1. SEND側ユニット(右)とRECEIVE側ユニット(左)の両方の電池カバーを開けて、中にある電池スナップを9V形乾電池(別売)に接続した後、電池を電池ボックスに収めて電池カバーを閉めます。
2. 敷設済みのケーブルをテストする場合は、上下側面のネジをゆるめてSEND側ユニットとRECEIVE側ユニットを分離します。
3. SEND側ユニットの電源スイッチをONに、RECEIVE側ユニットの電源スイッチをCABLE TESTに切り替えます。
4. テストするケーブルの一端をSEND側ユニットの対応する端子に接続します。この時点でSEND側ユニットの黄色のLEDが点灯する場合は、点灯する番号のピン(線)がショートしています。
5. ケーブルのもう一端をRECEIVE側ユニットの対応する端子に接続すると、自動的にテストが開始されます。RECEIVE側ユニットは、1番目のLEDが点灯すると同時に「ピー」という音が鳴ります。ケーブルが正常な場合は、SEND側ユニットでは黄色のLEDが、RECEIVE側ユニットでは緑色のLEDが、それぞれ1から順番に点灯していきます。正常でない場合は、ケーブルの状態に応じて以下のようにLEDが点灯します。

RECEIVE側ユニットに点灯しないLEDがある場合

LEDが点灯しない番号のピン(線)がショートしています。

RECEIVE側ユニットでLEDの点灯する順番が乱れる場合

LEDの点灯する順番が乱れる番号のピン(線)がクロスしています。

SEND/RECEIVE側ユニット共に同じ番号のLEDが点灯しない場合

LEDが点灯しない番号のピン(線)が断線しています。

**注意** ・ 複数のケーブルを同時に接続しないでください。ショートによる火災や感電の原因となります。

**備考** ・ 2本以上のピン(線)がつながっているケーブルでないとテストが開始されません。正しい手順を踏んでもテストが開始されない場合は、1本を残して全てのピン(線)が断線しているか、全てのピン(線)が断線している可能性があります。

- ・ テストを繰り返す速度はSEND側ユニットのTEST SPEEDコントロールで調整できます。遅くする場合は左へ、速くする場合は右へ回してください。
- ・ TS標準フォーン端子を搭載したケーブルをテストする場合、プラグは根元まで挿入する手前にある2段階の引っ掛かりのうち2段目で止めてください。本機はステレオジャックを採用しているため、TS標準フォーンプラグを根元まで挿入するとリングとスリーブがショートし、正確な結果が得られません。正しく接続したうえでケーブルが正常であれば、SEND/RECEIVE側ユニット共に1と3のLEDが順次点灯します。
- ・ 付属のテスター棒を使用してテストする場合は、RECEIVE側ユニットのみを使用します。テスター棒のパナナプラグをTEST PROBES端子に接続し、テスター棒の先端をテストするケーブルのプラグ等に当ててください。ケーブルが正常であれば、端子の間にあるLEDが点灯し「ピー」という音が鳴ります。

### <トーンジェネレーターの使用法>

1. RECEIVE側ユニットのみを使用します。RECEIVE側ユニットの電池カバーを開けて、中にある電池スナップを9V形乾電池(別売)に接続した後、電池を電池ボックスに納めて電池カバーを閉めます。
2. ケーブルの一端をRECEIVE側の対応する端子に、もう一端をミキサーやパワー・スピーカーなどの入力端子に接続します。
3. TONE LEVELコントロールを左に回し切り、信号の出力レベルを最小にします。
4. 電源スイッチをTEST TONEに切り替えてください。1kHzのトーン信号が出力されます。
5. TONE LEVELコントロールを右に回して、適当な出力レベルに調整します。

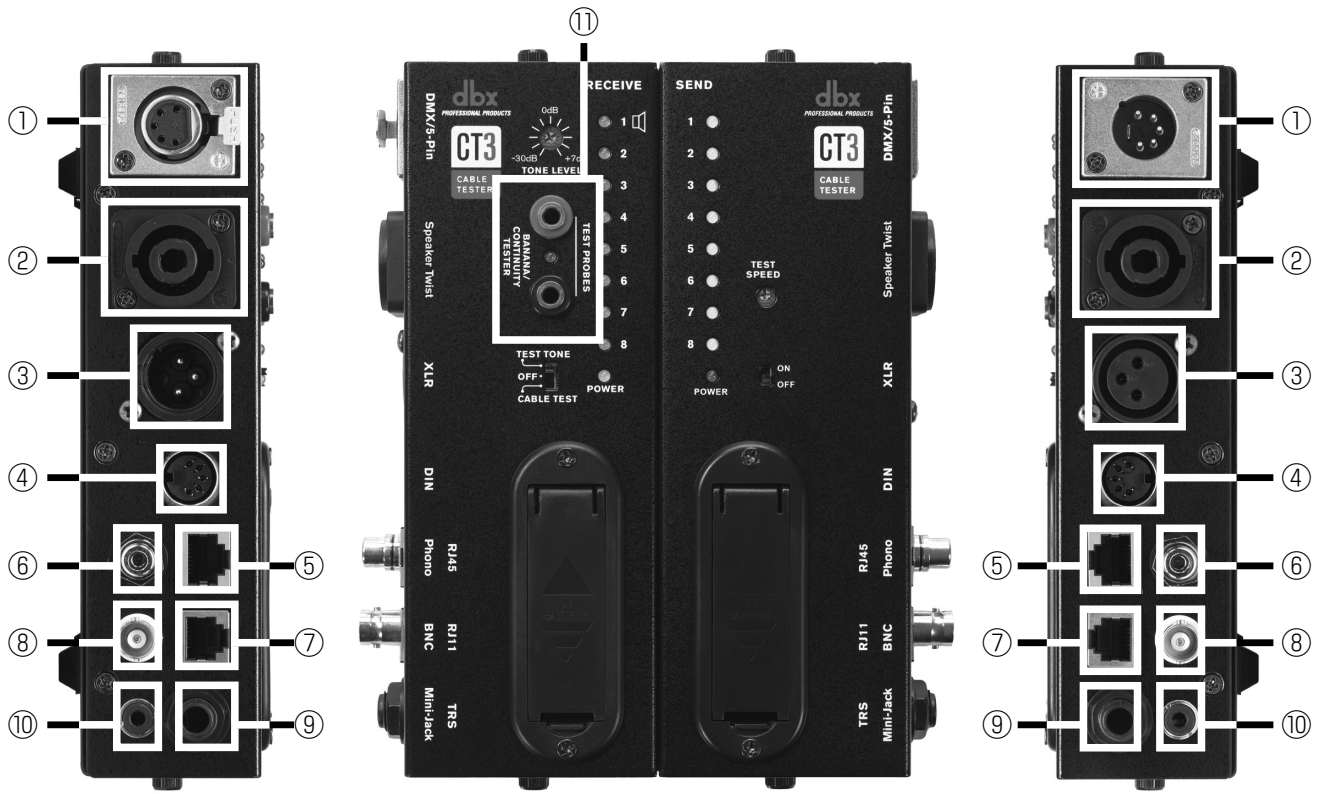
**備考** ・ 複数のケーブルを同時に接続しないでください。出力レベルが下がったり、位相の違いで音が消える可能性があります。

- ・ 接続機器に応じた出力レベルの目安は以下の通りです。アンバランス接続の機器をテストする場合、出力レベルはTONE LEVELコントロールの表記の半分の値になります。
  - ・ スピーカー、ヘッドホン: +7dB以上
  - ・ ミキサーのマイク入力: -30~-20dB
  - ・ ミキサーのライン入力: 0~+3dB

<左側面>

<正面>

<右側面>



- ① DMX(5P)端子用
- ② スピコン(4P)端子用
- ③ XLR(3P)端子用
- ④ DIN(5P)端子用
- ⑤ RJ45端子用
- ⑥ RCA端子用
- ⑦ RJ11端子用
- ⑧ BNC端子用
- ⑨ TRS/TS標準フォン端子用
- ⑩ TRSミニフォン端子用
- ⑪ バナナ端子用



2016年12月版

●商品写真やイラストは、実際の商品と一部異なる場合があります。●掲載内容は発行時のもので、予告なく変更されることがあります。変更により発生したいかなる損害に対しても、弊社は責任を負いかねます。●記載されている商品名、会社名等は各社の登録商標、または商標です。

**HIBINO**

<http://www.hibino.co.jp/>  
E-mail: [proaudiosales@hibino.co.jp](mailto:proaudiosales@hibino.co.jp)

ヒビノ株式会社 ヒビノプロオーディオセールス Div.

営業部  
〒108-0075 東京都港区港南3-5-12  
TEL: 03-5783-3110 FAX: 03-5783-3111

札幌オフィス  
〒063-0813 北海道札幌市西区琴似三条1-1-20  
TEL: 011-640-6770 FAX: 011-640-6776

大阪ランチ  
〒564-0051 大阪府吹田市豊津町18-8  
TEL: 06-6339-3890 FAX: 06-6339-3891

名古屋オフィス  
〒450-0003 愛知県名古屋市中村区名駅南3-4-26  
TEL: 052-589-2712 FAX: 052-589-2719

福岡ランチ  
〒812-0041 福岡県福岡市博多区吉塚4-14-6  
TEL: 092-611-5500 FAX: 092-611-5509